

G20とトルコリラ

G20首脳会議が今週大阪で開かれる。注目のイベントだ。ただ世界の主要問題を多国間協議で解決の道筋をつける本来のG20の役割のために注目されているのではない。2国間協議のためだ。まさにトランプ大統領のスタイルになってしまった。

数多くの2国間協議で最も注目されるのが米中首脳会談であることは衆目の一致するところだ。米中貿易戦争の解決への糸口が見いだせるかだが、来年の大統領選への影響をどう考えるかがポイントになる。トランプがイラン攻撃を直前になって中止したのも、イランとの開戦は大統領選に致命的になるとの一部のトランプ陣営の意見が影響した。トランプは以前米国のイラク戦争を非難していたくらいだ。

米中の2国間協議に比べると、他はすべて色あせた感があるが、イスタンブールの市長選のやり直し選挙で負けたばかりのトルコの大統領とトランプの会談も興味深い。トルコリラは選挙の結果を受けて月曜日にドルリラは急落（リラの上昇）し、5.73を超えたが、直近では5.80水準で推移している。

普通は政権与党の敗北は市場では通貨安になるが、トルコではリラ高になった。これは市場でエルドガン政権の政策や政治スタイルが評価されていない証だ。インフレを抑えるには金利を下げると常識に反した見解で中央銀行に圧力をかけたり、リラ売りを煽ったとして米銀のアナリストの取調べに動いたり、市場参加者を逆なでするような言動を繰り返してきたので無理もない。

トランプ大統領との協議ではトルコがロシアの航空防衛システムを導入する件が議題になることは必至だ。NATOのメンバーでもあるトルコがロシアのシステムを導入することは普通考え難いが、そこがエルドガンだ。トルコはそこら辺の中東の国とは違う、トルコが決めたことに米国も嫌とは言えない、と自信を示すが、相手はトランプだ。似た者同士でどうなるか。喧嘩別れになるか意気投合するか予想しがたい。

いずれにせよこの問題も中東地域の不安定材料の一つだ。地政学的リスクはリラにはネガティブだ。トルコは経常収支赤字国で基本的に外国からの資本流入が必要だ。従って国際的には安定した環境が必要だ。

リラは年初から8%ほど対ドルで下落したが、このところ下落は抑制されている。資本流出規制などの措置も採られたが、ドル金利の低下の影響が大きい。最近では財政支出削減の動きもある。

だが問題はエルドガン大統領の政治姿勢だ。イスタンブール市長選の敗戦後は野党の意見も取り入れるとの柔軟姿勢を見せているが、国内政治が不安定になるとの見方もある。中東地域の緊張は長引く可能性がある。石油価格にも影響する。リラの戻しは限定的にならざるを得ない。